



月刊 まつなみ



写真: 医事課 加藤 康昭

挨拶は 親しまれる病院づくりの 第一歩

みどりのそよ風

みどりのそよ風 いい日だね
 蝶々もひらひら 豆の花
 七色畑に 妹の
 つまみ菜つむ手が 可愛いな
 みどりのそよ風 いい日だね
 ぶらんこゆりましょ
 うたいましょ
 巣箱の丸窓 わんね鳥
 とときどきおつむが
 のぞいてる

医療法人 慈西厚生会 理念

私たちは、地域住民の皆様に、安全で質の高い医療・福祉を効率的かつ継続的に提供する

基本方針

私たちは、地域中核病院を有する法人として、医療環境の変化に対応した質の高い保健・医療・福祉サービスを通して地域社会と共に発展をめざします

私たちは、患者様や利用者の方のプライバシーを守るとともに、権利を尊重し、根拠に基づいた医療・福祉サービスを提供するよう努力します

私たちは、経営の安定と組織の活性化を図ることにより、職員の仕事が安定し、生活が安定し向上するよう努力します

目次

- 後期研修を始めて
- 皮膚科のお話
第7回濃尾医療連携セミナー開催
6月のお知らせ
- 外来基本診療体制

松波総合病院ホームページ

<http://www.matsunami-hsp.or.jp/>

後期研修を始めて

麻酔科 後期研修医：小島 明子

はじめまして。私は平成18年に愛知医科大学を卒業し、愛知県尾張旭市の旭労災病院で医師初期研修を終了しました。医師3年目の今年4月より松波総合病院の麻酔科に勤務することになりました。

手術室での勤務が主となるため、皆さんにお会いする機会は内科・外科の先生方に比べ少ないです。麻酔科では皆さんの手術が円滑に終了するように手術中の全身管理を行っています。手術中はすぐ傍に麻酔科医がおり術中の皆さんの安全を担っています。テレビドラマや小説、マンガなどで麻酔科をご存知のかたも増えてきましたが、手術を受けない限りはやっぱりまだまだなじみのない科だと思います。今後、手術をうける機会があれば麻酔科の存在を少しでも意識していただけると嬉しいです。

松波総合病院に勤務して約2週間がたちました。病院が大きくて広いので最初は院内で迷子になっていたりです(笑)。まだまだ慣れない事もありますが、新しい環境・スタッフの中で毎日を頑張っていますのでよろしくお願いします。

麻酔科 後期研修医：田中 亜季

皆様はじめまして。私は平成18年に岐阜大学を卒業し、岐阜県関市にある、中濃厚生病院で2年間の初期臨床研修を終え、この4月に松波総合病院麻酔科に着任いたしました。

麻酔科と言うとどんなことをしている科なのか、内科や外科よりもわかりにくい方も多いと思います。

患者さんが痛がっているは手術になりません。痛みを取り、時には眠らせ、手術しやすいように筋肉が動かないようにし、術後も痛みをコントロールする…大雑把ですが、これが麻酔科の主軸となるお仕事です。もちろん、手術にはいろいろな種類があり、麻酔方法も術後の管理も様々です。

私自身手術を受けた経験があるのですが、知らないうちに息が止まり、呼吸の管理をされ、手術が終わり、術後も全く痛くなく、本当に本当にびっくりしたことを覚えています。

一時的とはいえ、患者さんの息を人為的に止め、心臓に負担がかかったり、血圧が下がるような麻酔薬を投与するのですから、いかに全身管理をして、手術可能な状態を作るか、とても繊細な技術を要する分野だと思います。

初期臨床研修の2年間のうち麻酔科も選択しましたが、知識も技術も未熟で、皆様に助けられつつ勉強の毎日です。手術を終えられた患者さんに、「全く覚えがない」「今も痛くない」と言っていただけのように、日々努力してまいりますので、よろしくお願いたします。

内科 後期研修医：青松 元昭

皆さんこんにちは。私は、平成18年に岐阜大学を卒業し、犬山中央病院で1年間、岐阜大学病院で1年間の初期研修を終了後、今年4月から内科にて後期臨床研修をさせていただくこととなりました。今後は内科全般、特に糖尿病専門医を目標に研鑽を積みたくと考えております。

新聞やTVのニュースで話題になっており皆さん御存知ではあると思いますが、今年4月からメタボリックシンドローム健診、通称メタボ健診が始まりました。詳細は省きますが、ウエストが男性85cm、女性90cm以上であると危険信号です。こうならないために普段から食生活の見直し、また運動をする習慣をつけて病気になるのを予防しようということがこの健診の目標です。「腹八分目医者いらず」とは昔の人はうまくいったものですが、食生活の見直しメタボ対策の基本になってきます。

このメタボ健診が始まったことによって今後は病気を予防する時代に入ったといえます。及ばずながら内科医の立場から、メタボ予防の一助ができればと考えております。

さて私の今の状況はというと、新しい環境の中で気持ちも新たに診療に取り組んでおります。まだまだ経験不足で皆さんに助けていただいている部分が多いのですが、笑顔を絶やさず皆さんから早く信頼されるよう努力して参りますので宜しくお願いいたします。



5月から皮膚科の診療を担当しています、藤澤智美です。

皮膚科は、水虫、湿疹、いぼ、おできなど皮膚の表面が変化し、目に見える病気で受診されます。そして塗り薬や飲み薬を使って、時には削ったり切除したりしながら、元の状態に戻すために治療をしています。

皮膚を通して皆様の健やかな毎日のためにお手伝いをさせていただきます。

夏は感染症の季節です。

水虫も感染症のひとつです。白癬菌というカビの一種が皮膚の湿ったところに住み着いてしまい、足の指の間がグチュグチュしたり痒くなったりしてしまいます。白癬菌が爪の中に入ると白く厚くなってしまいます。水虫を放置していると時々足が腫れ上がってしまうことがあります。また家族に感染することもありますので、是非一度、皮膚科にいらしてください。

お子さんは、水いぼや、いぼができてやすくなります。

これらも感染症です。お友達同士で遊んでいるとうつしてしまうことがありますので、プールが始まる前には治しましょう。

また、**とびひも夏の感染症です**。痒いので引っかいていると体中にすぐに広がります。感染力が強いので家族の皆さんにうつることがあります。飲み薬ですぐに良くなりますので、とびひが始めたら早めに受診してください。

「いつもと違うな。」「おかしいな。」「こんなものあったかしら？」ということはありませんか？ ちょっとした変化の後ろに大きな病気が隠れていることがあります。しかし、皮膚は外から見える臓器です。ご自分でまたは家族の方が気づいてくださって早く対応することができます。「恥ずかしいから…」「大した事ないから…」とあっしやらず、**皮膚科に気軽にご相談ください**。

「第7回 濃尾医療連携セミナー」 開催

地域医療事業部 ソーシャルワーカー 津嘉山 隆

去る4月19日（土）、グランヴェール岐山において「第7回 濃尾医療連携セミナー」が開催されました。連携医の先生方、他医療機関の職員の方々、当院職員を含め200名を超える参加者となり、下記の2つの講演に耳を傾けました。

◎ 『H. Pylori除菌の臨床』

松波総合病院 内科 早崎 直行

◎ 『かかりつけ医が実践する在宅医療』

野村内科クリニック 院長 野村 良彦先生

ご講演頂いた野村先生のお話にもありました通り、厚生労働省は、更に在宅医療に重点を置く方向で進んでいます。今回のセミナーのように、様々な地域で展開されている地域医療についての勉強を深め、それをこの地域にも生かせるように開業医の先生と更なる連携を進めていく努力が必要であると感じました。

当院では222の開業医の先生と連携させて頂いておりますが（平成20年5月1日現在）、普段より患者様には『かかりつけ医』をお持ち頂き、検査や入院の必要が生じた際に、『かかりつけ医』の先生より当院にご紹介して頂くという流れをご説明させて頂いております。万が一病気にかけられても、慌てることのないよう、そして安心してこの地域で暮らすことが出来るよう、『かかりつけ医』を持たれることをお勧めします。

『かかりつけ医』をお持ちでない方、どのように探して良いか分からない方、連携医の先生をご紹介させて頂きます。当院の担当医にご相談頂くか、地域医療事業部までご相談ください。

6月 お知らせ

■糖尿病教室 ※糖尿病が気になる方はどなたでも気軽にご参加ください。

◎毎週水、金曜日 5階病棟デイルームにて 午後1時～2時

尚、都合により日時等変更する場合がございますのでご了承ください。



交通のご案内

新幹線羽島駅 ——— 西笠松 ——— 松波総合病院

松波総合病院
タクシー20分

名鉄岐阜駅 ——— 西笠松 ——— 松波総合病院

松波総合病院
タクシー15分

名鉄名古屋駅 ——— 笠松 ——— 松波総合病院

松波総合病院